

シリアの ISIS を支援しているのは誰か？ エルドアンかオ バマか？ 交差的同盟、NATO 危機

【訳者注】トルコの動きについて、いくつか解説がなされているが、チョストドフスキー教授のこれが最もわかり易いと思う。エルドアン大統領は、今までの実績から言っても、日和見主義者で油断はできないとも言える。しかし、それを認めても、彼がアメリカや NATO を公然と裏切って、ロシア側に傾くというこの行動は、アメリカの対外政策に「くさびを打ちこむ」(p.6) ことにはなるだろう。それに、誰でも知っていたこととはいえ、他ではないエルドアンが、アメリカやその同盟国のテロリスト支援を、明確に証言したことには意味があるだろう。何と云っても、全体から浮かび上がってくるのは、賢明なプーチン（ロシア）とぶざまな米 - NATO という構図である。

Prof. Michel Chossudovsky

Global Research, December 28, 2016



異常な成り行きの変転によって、ワシントンは、アンカラ（トルコ政府）が ISIS を支援していると言って非難している。

そしてトルコ大統領エルドアンは、ワシントンこそ ISIS を支援していると応酬している。「現在、彼らはダエシュ (= ISIS)、YPG、PYD を含めてテロリス

ト・グループに援助を与えている。それは明らかだ。我々は、画像や写真やビデオによって証拠を確認している」と、エルドアンは言った。

そしてワシントンは、それに応えて「彼[エルドアン]もシリアに兵器を供給し続けている。それはクルド人を狙うのが究極の目的で、ISIS は二の次だ」と言った。

ワシントンは、エルドアンのこの最近の主張を強く否定しているが、政治的・軍事的同盟関係の構造は、危機を迎えている。

誰が ISIS を支援しているのか？

事の真相は、アメリカもトルコも共に、テロリストに密かな支援を与えていて、そこには ISIS もジャブハト・アル・ヌスラも含まれているということである。

トルコもアメリカも共に、北シリアの ISIS を支援するのに協力している。

そもそもの初めから、イスラム国は、より幅広い米 - NATO 同盟国によって（もちろん非公式に）支援されていて、そこには、いくつかの NATO 加盟国（米、仏、英、トルコ等）そして、サウジアラビア、カタール、イスラエルを含む彼らの中東同盟国が含まれている。

エルドアンにとって気がかりなのは、アメリカはまた、ISIS と戦っている、クルド人分離派の YPG（クルド人民防衛隊）軍をも支援していることである。そして最近まで、トルコは、ISIS 反乱軍を使って、アメリカに支援された YPG 軍と戦っていることである。

2011 年初頭から、シリアに配置するためのジハードイスト傭兵の募集は、NATO とトルコ高等司令部によって調整されていた。この点から見れば、トルコは、補給、武器供給、募兵、および訓練において、ワシントンやブリュッセル（NATO 本部）と緊密に連携して、中心的な役割を果たしていたのである。

アンカラ政府はまた、ジハードイスト反乱軍の行動を保護し、北シリア国境を越えて補給するという、戦略的役割を果たしていた。

いま起こっていることは、“交差同盟関係”が生じてきたことによって、軍事同盟の構造に亀裂が入ったということである。

NATO 加盟国家としてのトルコは、アメリカの同盟国である。しかしアメリカは今、ISIS ともトルコとも戦っている YPG を支援している。

これに対して、アメリカの確固たる同盟国のトルコが、今、ロシアやイランと交渉している。

すでに 2016 年 5 月、エルドアンは、米 - NATO が YPG 軍を支援しているという非難した——

「彼ら [米、NATO] が YPG 民兵団に与えている支援・・・私はこれを非難する」と、

トルコ大統領エルドアンは、土曜日、クルド族の都市 Diyabakir の空港の式典で彼らを糾弾した。「我々の味方である人々、NATO によって団結する人々は、彼らの兵士たちに YPG の記章を付けてシリアへ送ることはできないし、してはいけない」(Ara News Network, May 28, 2016) <http://aranews.net/2016/05/us-will-back-kurdish-ypg-forces-despite-turkeys-concerns/>

このアメリカとトルコの間、大西洋同盟の心臓を一撃するような衝突の、根底にある原因は何だろうか？

ワシントンは、エルドアンの北シリアの領土的野心に、断固として反対している。米 - NATO の目標はシリアもイラクも分割することである。ワシントンの北シリアにおける戦略は、クルド人の YPG 分離派を支持し、支配することにある。

米務省報道官 Mark Toner は、ワシントンは、「たとえトルコ政府がクルド - アメリカ協力を反対しても」、YPG 支援を続けるだろうと確言した。(Ara News Network, Dec. 27, 2016) ——

「・・・同盟国の間にも、どのように対処するか、現場で誰と協力すべきかについて、意見の違いがあります。それが無いと言うつもりはありません。そして明らかに、トルコは、彼らの YPG についての感情を非常に明らかにしました。我々もまた、トルコの懸念は理解できるものの、シリア民主党軍全体の中の一部としての YPG との協力を続けていくことを、同様に明らかにしています。だから YPG は、我々が地上で協力していく唯一のグループではありません。我々はシリアのアラブ人、シリアのトルコ人、その他、ダエシュと戦っているグループとも協力していきます。」

公式にはアメリカは、ISIS と戦っており、非公式には彼らを支援している

そして今、180 度の回転によって、西側の特別部隊に（しばしば私的な傭兵会社との契約によって）隠密に非公式に統合されていた ISIS が、NATO 加盟国であるトルコに敵対することになった。この行動は大きくは、トルコ軍とも戦っている YPG のためである——

ISIS は、戦闘の間に 70 名のトルコ兵を殺したと主張しており、数日前には、歪んだ死の儀式によって、生きたまま焼き殺された 2 人のトルコ人のビデオが公開された。

トルコは戦車や重火器をその国境に急送し、米主導の同盟軍に対し、ISIS 軍の致命的な抵抗に遭遇したエルドアン軍を援護して、なぜ空中からのサポートを十分にしな

ったのかと非難した——14 人のトルコ兵が殺されたのだった。(Daily Express, Dec. 27, 2016) <http://www.express.co.uk/news/world/747678/Turkey-Tayyip-Erdogan-America-US-ISIS-Islamic-State-Syria-Aleppo-Obama>

交差同盟国

アンカラが、ワシントンを非難する一方で、モスクワは、外交的レベルにおいて、巧妙な“ダブル・ゲーム”をプレイしている。外務大臣ラヴロフは、片方でジョン・ケリーと話し合いながら、もう一方ではアンカラと交渉している。

12月21日、ロシア、イラン、トルコの外相が（下の写真）、モスクワに会し、「シリアにおける長期紛争の解決を目指す共同声明」を発表した。(RT, Dec. 22, 2016)



モスクワはまた、サウジアラビアを含む他の国々も、この発議に参加するように招待されるだろうと示唆した。「非常に重要なことは」、モスクワ、テヘラン、およびアンカラによるこの声明が、このような努力に加わることで“現場に”影響力をもつ、他の国々への招待を含んでいることだ。」(RT, 同)

その根底にある目標は、サウジアラビアや湾岸諸国の米 - NATO への忠誠心を弱めることであろう。注目すべきは、この観点からすると、モスクワが、天然ガスの領域で大きな取引をした後、カタールとの戦略的同盟を樹立したことである。最近まで、カタールは、サウジと共に、シリアの“反乱”を支持し資金援助していたのであり、そこにはイスラム国もアルカーイダも含まれ、それはワシントンのため、ワシントンと緊密に連携するためだった。

Thierry Meyssan によれば——

モスクワはうまくカタールを転向させ、自分の同盟国にした。カタールの心変わりには、12月、ドーハでのモスクワによる売り上げが、ロスネフチ社（Rosneft、ロシア石油）の資本の5分の1に達したことによって、取引契約された。ロシア王冠の宝石であるロスネフチ社は世界最大の会社である。この取引を実現させることによって、・・・ウラジミール・プーチンは、世界最大の2つのガス輸出会社の政治的エネルギーを、不可分に結合させてしまった。事実上カタールは、ジハーディストとは手を切ったが、昨年の5月以来、彼らは、ブリュッセルのNATO本部の永久オフィスを、処分している。

<http://www.globalresearch.ca/liberate-idle-after-east-aleppo-shifting-military-alliances-moscows-role/5565126>

いみじくもモスクワは、中東におけるアメリカの最も堅固な同盟国との、“交差同盟関係”を選んだ。これらアメリカの代理国家との同盟は、その性質そのものによって、脆弱ではあるが、それでもやはり、**アメリカの対外政策の行動にくさびを打ち込む**ことにはなる。それはまた、ワシントンの中東への地政学的なカギ爪の力を弱らせるであろう。重要な問題は、新しいトランプ政権が、これらの展開にどう対応するかということだ。

メディア報道によれば、トルコは、2013年以來 ISIS に占領されていた北部シリアの Al-Bab 市包囲攻撃において、モスクワの援護を受けているという。激しい戦闘が継続中である。アンカラは12月26日、「反 ISIS 連合軍がアルバブに進撃中だった」と伝えた。